



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 山崎 均／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://www.jichiro.gr.jp/zensyokyo/index.html>

●会場を沸かせた長野県・須坂消防協のボランティア活動「消すんジャー」（写真左下）の実演。開会前には元単協会長の再任用拒否の取り消しを求める福岡県消協の仲間がピラ配り（右下）。



創る、つづける、質の高い消防サービス 大阪市で第38回研究集会を開催

「地域住民の安心と安全の確立のために、質の高い消防サービスを考える」をメインテーマに、全消協は5月12日から14日、大阪市の中央公会堂ほかで第38回全国消防職員研究集会を開き、全国から370人（女性18人、未組織消防本部10本部17人）が参加した。集会では基調講演や研究報告、課題提起、長野県・須坂消防協と三重県・鈴鹿消防協の市民ボランティア活動の紹介や課題別分科会などを行った。また阪神・淡路大震災の経緯を踏まえた地域防災の特別分科会、JR福知山線事故の現場の視察など、開催地の特色を生かした企画も行われた。

また集会には、自治労大阪府本部副委員長の高永猛さん、民主党参議院議員の武内則男さん、自治労労働局長で次期参議院選挙に立候補を予定している江崎孝さんも駆けつけ、市民の安心・安全を守る消防行政の拡充、団結権獲得をめざす全消協への連帯を表明した。



何時解散されるか不透明ではあるが、国政選挙の年だ。前回のようにならないように、また、私たち消防職員の身分をより確かなものにするために冷静な判断が重要だ。

ひとり一人の今を変えたいと思う強い意思が大きくなうねりになって良い方向に変わること信じよう。全消協活動も同じだ。誰かがどこかで何かをやって変えてくれるだろうではなく、全消協に結集する会員が今の現実に向き合って決ってあきらめない強い意思が、人を動かし大きな力になることを信じ参加、行動をしよう。

ドイツでは国民性もあるだろうが、軍隊が労働組合を結成している。国と交渉し、働きやすい職場を求めて行動したという新聞記事を見た。そこに働くものには分からない現実がある。

「我慢」することも必要だろう。しかし、国は違っても同じ血の通う人間だ。日本人は「我慢」を美德とするが、「我慢」にも限度がある。「怒り」を「力」に変えて「チェンジ」をめざそう。しかしそれだけ責任も重くなることを肝に銘じてだけどね

門間 孝一（全消協事務局次長）

会
あいさつ
長

熱く語りあおう 「質の高い消防」

会長 迫 大助



重要文化財の立派な会場での研究集会を用意いただいた地元の皆さんに感謝したい。「質の高い消防サービス」を考える実りある集会とするため、活発な議論と運動の交流を期待する。

大分で訓練中の事故で若い会員が亡くなった。哀悼の意を表し、再発防止の取り組みを誓う。

基調講演

消防がつなぐ地域の力 同志社大学教授 風間規男さん



阪神・淡路大震災の地域別の被災状況を検証したところ、被害の軽かった地域はコミュニティが大きな役割を果たしたことが分かった。これを教訓に、地域防災の現状を把握し、それぞれの地域の特性を検証し、防災面での強みと弱点を洗い出すことが重要だと言える。

住民の防災力の向上には消防職員が日常業務を通して住民とともに取り組むことが不可欠だ。消防機関の特性を生かして、地域との関係作りを考えて欲しい。地域でボランティアをしようとする市民を、地域の防災活動につなぐ役割が、消防職員に期待される。

来賓 あいさつ

参議院議員 武内則男さん



民主党へのご支援に感謝する。消防法が改正された。課題の山積する救急医療の改革のため、現場の声を反映させるために、全消協とともにがんばる。

総合研究委員長報告

木村 淳さん



救急医療の地域格差は深刻だ。「限界救急集落」が出現している。消防職員が質の高い救急サービスを提供できる政策研究をとりまとめ、総会には最終報告を行う。

自治労衛生医療評価副議長

松丸重子さん



市民の命を守るため、医療労働者と消防職員の連携がもつと必要だ。仲間だからこそ率直に意見を出し合い、救急医療をよりよいものにしていく。

自治労健福局長・PSI執行委員

中島圭子さん



QPS(質の高い公共サービス)キャンペーンとは、市民に公共サービスの意義をアピールとともに改革を呼びかけるもの。各地で工夫し個性的な取り組みを広げよう。

自治労推薦候補 江崎孝さんが決意表明



来年の参議院選挙の比例代表に民主党から、自治労の組織候補として立つことを決意した。

日本では格差が広がり、貧困が現実のものとなった。地域と生活の破壊を食い止め、働くものの権利が守られる社会をつくるには、政権交代しかない。消防職員の団結権を獲得するためにも、民主党が勝つことが必要だ。

全力でたたかっていく。全消協の仲間のご支援を是非、お願いしたい。

第I分科会 組織強化・拡大

広域化のもとでの単協活動を討論

第I分科会は「未来の消防を考
える」をテーマに開かれた。

吉川大介幹事が運営計画策定段階の単協活動について提起した後、自治総研研究員の飛田博史さんが財政的視点からの広域化について講演した。続いて自治労組織局長の横山龍寛さんが組織強化拡大の必要性について提起し、山崎均事務局長がファシリテーターとなり、広域化の課題や単協活動についてグループ討議した。

参加者からは活発な意見が出され、総括として住吉光男副会長が、「この分科会で議論された結果を単協活動に生かし、未来の協議会のためにとがんばろう」と締めくくった。



第II分科会 賃金・労働条件

無賃金拘束時間など議論

第II分科会は80人（未組織2人）が参加し、まず西岡博之幹事が「消防職員と労働基準法」について、法令等の基礎知識・活用方法等について講演した。

次に伊藤薫副会長が「無賃金拘束時間」について、三重県・四日市消協の取り組み報告を含めて講演。続いて千葉県・松戸消協の澤田和幸会長が松戸市の「パワーハラスメント」訴訟について報告した。

最後に弁護士の小倉知子さんと渡辺晶子さんが「労働事案と解決策」と題して九州の消防職場での事案について紹介し、法的課題の考察を述べた。



第III分科会 救急医療体制

新型インフル対応も課題に

第III分科会は、90人が参加し、午前中、座長である小田規親幹事が「救急の現場と課題」と題して、最近出動要請の多い転院搬送や老人福祉施設に対する横浜市の取り組みの報告と、新型インフルエンザへの現場救急隊員の対応報告を行った。続いて、総合研究委員会の岩本展政委員からアンケート調査の報告が行われた。

午後からは、横浜医療センター・救急救命センター長である山本俊郎さんが「メデイカルコントロール体制の現状と課題」と題して講演し、参加者のグループ討議とその発表を行い終了した。



第IV分科会 労働安全衛生

安衛委の活性化を討論

第IV分科会は、「労働安全衛生く快適な職場づくり」をテーマに開催。講師は自治労香川県本部特別執行委員の野中幹男さん。安全衛生委員会の活性化について事例の検証などの討議を深めた。野中さんは豊富な経験を踏まえて参加者に様々なアドバイスを提示した。午後は大阪市消防局の西消防署を訪問し、見学した。

今なお残る事故の爪痕
犠牲者に花手向ける
集会3日目の特別企画として、JR福知山線の脱線事故現場を視察するフィールドワークを行った。

第V分科会 男女平等

個が尊重される職場と社会を

第V分科会は、ジェンダー問題に詳しい伊田広行さんと自治労元中執の野田那智子さんを講師に迎え、講義やワークショップを通して「男女平等参画社会の実現」に向けた取り組みを学んだ。

グループ討論では、職場で少数である女性職員が、どのような言動に不快感を抱くかなど具体的な経験が語られ、個人を尊重することの大切さを認識した。

昨年引き続き2回目の分科会開催で、今回の参加者は男女比がほぼ同数。全消協の男女平等の課題への取り組みが徐々に浸透しつつあることをうかがわれた。



第VI分科会

語ろう地域防災と消防の役割

第VI分科会は「地域防災と消防」をテーマに、ランドシステム研究所、防災・環境・まちづくりアドバイザーの岡本茂さんを講師に迎え、『日本の自然と災害のしくみを考える』と題し、日本各地の特性・自然災害の分類などの講演を受けた。

その後、班ごとに各地域の災害の特性や地域防災計画のあり方について討論し発表する参加型の研修を行った。「大災害が発生した場合、消防が機能しない可能性があり、日頃からコミュニケーションで顔の見える関係を築くことが大切だ」と参加者から声が上がった。



沖縄県・金武地区消防職員協議会

いちやりばちょうで

格差に驚き協議会を結成 賃金ベースアップを獲得

全国消防職員協議会の皆様、こんにちは！

私たちは「金武地区消防職員協議会」です。沖縄県内16番目の協議会として2008年6月28日に結成されました。

金武地区消防は、沖縄本島北部に位置する金武町、恩納村、宜野座村を管轄し、職員50名、1署2分遣署で約2万6千人の住民の防災を担っています。

さて、私たちが協議会結成に至った理由として、最も大きかったのが、他の消防本部との様々な

格差でした。

県消協から説明会を受け、いろいろな情報を得るたびに、広域合併どころか自分たちの職場環境の維持さえ難しい状況にあることを知り、職員同士が対等に意見を述べられる場を作り出さなければならぬことを痛感し、結成に至りました。

それから何度か職員同士で話し合いを持ち、粘り強く検討を重ねていった結果、長年の要望であった賃金のベースアップを勝ち取ることができました。まだまだ改善すべき課題はあり、会員一同23人、精一杯取り組みます。

今後も全国の仲間たちと「働きやすい職場環境づくり」を第一に、協議会活動を続け、反映させていきたいと考えています。全国の仲間の皆さん、よろしくお願いたします。



●「いちやりばちょうで」とは、沖縄の言葉で「一度会ったらみな兄弟」という意味です。